

「岡大教職ナビ」では教職課程を履修しているすべての学生に役立つ情報を随時配信しています。ここでは配信した最新記事の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報はセンターホームページをごらんください。

教員・講師等募集情報

- H27大学推薦による教員採用候補者の選考（大阪府（大阪市、堺市、豊能地区を除く））
- H27大学推薦による教員採用候補者の選考（大阪府豊能地区）
- H27神奈川県大学推薦による教員採用候補者選考
- 平成27年度採用大阪府（大阪市、堺市、豊能地区を除く）公立学校教員採用試験に関する説明会（学内）
- H27大学推薦による教員採用候補者の選考（堺市）
- H27大学推薦による教員採用候補者の選考（相模原市）
- 平成27年度採用大阪府豊能地区公立学校教員採用試験に関する説明会（学内）
- 川崎市教育委員会 教員採用試験説明会（学外）
- 平成27年度採用京都府公立学校教員採用試験に関する説明会（学内）
- 平成27年度採用横浜市公立学校教員採用試験に関する説明会（学内）
- 平成27年度採用岡山県・岡山市公立学校教員採用試験に関する説明会（学内）
- H27岡山県・岡山市公立学校教員採用候補者選考試験（概要）
- 平成27年度採用山口県公立学校教員採用試験に関する説明会（学内）
- 堺市教育委員会 教員採用選考試験受験説明会（学外）
- H27大阪府豊能地区公立小・中学校教員採用選考テスト概要

スクールボランティア募集情報

- 【H26】附属小学校健康診断ボランティア（岡山大学教育学部附属小学校）
- 学校支援ボランティア依頼内容一覧（2013.11.20）（岡山市教育委員会生涯学習課）
- 総社市学校支援ボランティア（総社市立昭和小学校）
- 倉敷市「居場所」ボランティア（倉敷市教育委員会生涯学習）

岡山CST養成プログラム 第四期生二次募集

応募期間：平成26年5月7日（水）～5月13日（火）

自信をもって理科の指導ができる
指導に困っている先生を支援できる
地域の小・中学校の理科教育を推進する力がある
そんな人材を岡山県教育委員会と共同で養成します。
CSTとは、中核的理数系教員（Core Science Teacher）を意味します。

詳細はCSTホームページをご覧ください。
<https://cted.okayama-u.ac.jp/cst/>



学生の視点に立って、学校園支援を充実させる
ための活動に参加しませんか？

スクールボランティアビューロー 新規学生スタッフ募集

学部・研究科・学年は問いません！

詳しくは、教師教育開発センター事務室（教育学部本館2階201室）
までお問い合わせください。

<教員採用試験受験記>出雲市 幼稚園教諭

合格

教育学部幼児教育コース 多久和 早紀 さん

私の採用試験への取り組みがみなさんの参考になれば幸いです。幼稚園の採用試験は、多くの自治体で9月に実施され、筆記試験の他に論文、討論、面接、実技等が課されます。まず、論文は慣れが重要です。教職相談室で添削を受け、テーマについて先生方と話をし、考えを深めました。さらに教育の動向について興味をもち考えておくこと本番で焦りません。次に、討論や面接は、友達と一緒に教職相談室で練習しました。友達の姿を参考にし、新たな考えを得たり、先生方からの助言を頂いたりとても勉強になります。また、討論は繰り返すと途中から「楽しい」と思うようになり、本番も緊張せずに臨めました。とにかく友達と教職相談室へ行ってみてください。最後に、笑顔と意欲が大切だと思います。「私をとらずに誰をとる!!」という意気込みで臨んでください。

教員リレー・エッセイ「教えるということ」

センター長 高塚 成信 教授

早いもので、知らぬ間に、教職に就いて35年もの歳月が流れました。高専で7年、岡山大学に移って28年になります。高専では高等学校段階の生徒に英語を、大学では主に英語教員志望の学生に英語の指導法を教えてきました。

私自身英語は以前にも増して好きですし、教えるということも基本的にはそれほど嫌いではないのですが、ここ数年特に感じるのは、大変教えるようになったということです。時には、授業をするのが嫌だと思ふことすらあります。

これは、自分が年を重ね、学生の興味・関心を捉えきれず、学生のニーズに合った授業ができなくなったことに最大の原因があるのだと思いますが、同僚などの話を聞くと、必ずしも自分だけの問題でもなさそうな気がします。

決して昔ながらの一方向的な講義をしているわけではないのに、学生は（一部ですが少数でもありません）、時に著しく無気力、無反応で、こんなに重要で興味深いことをしているのになぜ積極的に関わろうとしないのか、不思議に思ふ場面が増えました。私が思う重要で興味深いことは、学生の思う重要で興味深いことと大きなギャップがあるのでしょう。あるいは、重要で興味深いことの提示方法や設定する活動が悪いのでしょうか。

反転授業やMOOCsなど、指導と学習形態の新たな選択肢が話題になっています。諦めず、色々なことを試しながら、どうすれば学生の学ぶ意欲を高め、学びを助け促進させることができるのか、考え続けたいと思っています。



CTED NewsLetter

岡山大学 教師教育開発センター ニュースレター

Center for Teacher Education and Development, Okayama University

第8号

(2014年4月1日)

学校現場の最前線を知る！教師力養成講座の魅力



◆「教師力養成講座」とは？

学校現場では、子どもを確かに育てている教育活動と生き生きとした子どもの姿を見ることができます。一方、学校には、いじめや不登校など様々な課題もあります。教師の仕事場は、そんな学校です。しかし、大学に入ってくる学校現場の情報は、限られています。そうした情報不足もあって、教職を目指す学生のみなさんの中に

は、学校現場で働くことへの漠然とした不安を感じている人もあるようです。

そこで、教育相談室では、学校や教育委員会の最前線で活躍しておられる先生方をお願いして、日頃の取り組みや思いを直接学生さんに話していただく場を設けました。それが「教師力養成講座」です。25年度は7回開催しました。

先輩の熱い思いを語っていただき、その講話をもとに学生間で討論し考えを深め合い、最後に講師の先生から指導や助言をいただきます。こうした過程の中で、教職の魅力と教育課題の本質やその対応を理解することができます。それが、教職に向けての意欲や教師としての力量を高めていきます。

◆どのようなテーマの講座があるの？

最新の教育の動向などもテーマ選定の視点には入れますが、一番大切にしたい視点は、「教壇に立とうとする学生が不安に思ったり知りたいと思ったりしていること」です。ですから、みなさんの希望をどんどん教職相談室に伝えてください。それを大いに参考にさせていただきます。

これまで5年間に取上げたテーマは、右の枠内のようなものです。○は実施回数

◆「教師力養成講座」で学べることは？

このことについては、講話の内容や講座の進め方など、参加した学生の感想をもとに整理してみました。

○学校現場の具体的な課題について、教

員としての目線から考え、それに向けての取り組みを知ること。

○どのような授業づくりや学級づくりを目指せばよいのかを考えること。

○どのような教育をめざし、どのような教師になればよいのかを考えること。

○グループで討論することで、自分の考えをさらに深めること

○現場の先生の熱意や子どもへの愛情を感じ、教壇へ立つことへの意欲や思いを確かめること

○自分でもっともっとあるはずです。

自分で参加して確かめてみてください。

- 学級づくり③、いじめ②、不登校②、授業づくり②、外国語活動②、体罰、保護者のクレーム、子どもの問題行動、子どもの特性理解、生徒指導、食育、情報教育、理数科教育、キャリア教育、道徳教育、伝統文化と武道、NIE、保護者・地域との連携、携帯電話、発達障害、協同学習、伝え合う力、評価、学校力、教師力

*26年度も7回の開催を計画しています。第1回は、5月の予定です。

*これまで5年間の講座を録画したDVDを、教職相談室で視聴できます。5、6人のグループで意見交換をすると、学びをより深めることができます。

【文責：武藤幹夫】

「岡山市学校支援ボランティア 学生シンポジウム」開催される！



平成26年2月22日、岡山大学教育学部において、岡山市教育委員会主催、各大学学生による実行委員会運営のもと、県内8大学92人が参加して「学生シンポジウム」が開催されました。ノートルダム清心女子大学、環太平洋大学、岡山大学の3人の学生によるボランティア活動発表があり、受け入れ学校園からは大学生迎えるの現場の声や今後に期待すること等を発表していただきました。参加者一同、頷きながら大いに感じ入る場面が随所に見られ充実した会になりました。

ボランティアの第一歩を踏み出すまでの不安や迷いが、学校園現場で実際に子どもたちや先生方に出会い、それらが杞憂に終わり充実感や満足感に変わっていった体験が語られ、将来教職につきたいと思っている学生のモチベーションが高まりました。

発表内容に「先生には見せない子どもの姿を知ることが出来た」「失敗を恐れずに積極的にいくことの大切さを学んだ」「生徒の数だけ指導の数があると思った」「先生でもなく学生でもない特別な存在だからこそ出来ることがあることが魅力だと思う」「自分の課題を見つけて現場に入るとやる事がより明確になった」「教師としての責任の重さを感じた」等々、実際に体験をすることで見えてきた事、気づいた事、考えた事は参加者の心に響きました。

後半の情報交換・グループワークでは学生と現場の先生方が同じテーブルにつき熱く語ることが出来、より一層充実した時間を持つことが出来ました。

躊躇せずまずは学校園に出かけて下さい。必ずや得る所があります。現場は喜んで迎えて下さいます。大学での学びを実践に結びつけ、将来の目標に一歩でも近づけていって下さい。

【文責：曾田佳代子】

学生が実践の成果を発表



岡山県教育委員会主催の『「教師への道」インターンシップ事業シンポジウム』が、3月15日に岡山大学を会場に開催されました。参加者は、岡山県の教員を目指して「教師への道」研修を受講している（今後受講を希望している）学生、学校支援ボランティアやインターンシップに取り組んでいる（これから取り組もうとしている）学生、関係大学教員等々、県内外の15大学から100余名に及びました。

岡山大学の仲矢明孝教授と主催者からの開会挨拶に続き、代表学生4名から実践報告がなされました。内容は、学校支援ボランティアやインターンシップで取り組んだ経験談で、高校の授業の指導補助、部活動の指導補助、進路指導事務補助、小学校での特別支援を要する児童への関わり、学校行事への参加と学級づくり、中学校の通常学級と特別支援学級における授業補助等々について、パワーポイントを駆使しながら分かりやすく丁寧な発表がなされました。内容は多岐に渡りましたが、いずれの発表者も大学では経験できない実体験を通して、「教育実践力を向上することができた」、「自身の能力を磨く良い機会に成り、今後の自己課題が明確になった」と感想を述べていました。そして、参加者との質疑応答・意見交換により取り組み内容をより深くお互いに共通理解していきました。

引き続き、就実大学教職支援センターの赤坂英二企画監から、「『教育県岡山の復活』を託して-こんな先生に出会いたい-」と題して講演がありました。講師の長年にわたる教職経験からにじみ出た教育に寄せられる熱い思いを、時にはユーモアも交えながら切々と語りかけられ、参加学生には説得力があり、どの学生も聞き入っていました。充実したシンポジウムでした。

【文責：江木英二】

岡山大学スクールボランティア フェア2014へご参加ください！



教師教育開発センターでは「岡山大学スクールボランティアフェア2014-ボラ活！誰でもスタート、スクールキャリア-」を以下のとおり、開催いたします。学校園でのボランティア参加にあたっての説明・ボランティア登録や、参加者同士の意見交換、さらに岡山県・岡山市・倉敷市・総社市・瀬戸内市・赤磐市・早島町の各教育委員会の方々とボランティア活動の相談等を行います。

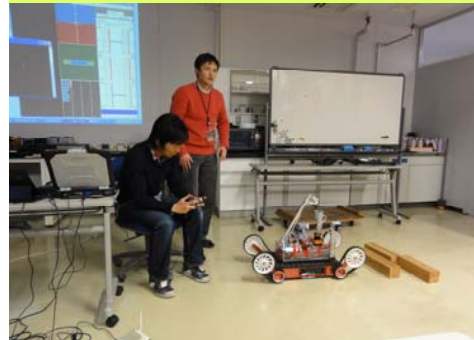
本フェアはこれまで毎年4・5月に開催していた「スクールボランティア説明会」に代わる新たなイベントです。学生スタッフによる学生目線での企画が行われていきます。また、本事業は「岡山市学校支援ボランティア」の登録・更新のための研修会を含んでいます。岡山市内でのボランティア活動を考えている学生は必ず参加してください。

★ちらし等はセンターHPに掲載しています。
https://cted.okayama-u.ac.jp/ion3on2qa-558/#_558

- 日時：平成26年4月5日（土）
13:30-17:30（13:00より受付）
- 場所：岡山大学創立五十周年記念館
- 参加方法：事前に当センターHPの専用フォームからお申込みいただくか、当日参加も受け付けています。

【文責：佐藤大介】

CST:ロボット開発を学習



今回のCST土曜講座は3/21（金）の祭りに開催し、工学部の前山先生にロボットについての解説をして頂きました。ロボット制御の仕組みの解説や、ロボットの演示などもありました。人間が何気なくしている動作でも、ロボットに確実にこなさせるためには複雑なプログラムが必要なことを知りましたが、裏を返すと、動物の身体は本当に良く出来ているなどあらためて関心します。原発事故現場等の過酷条件で確実に活動できるロボットは、多くの工夫があります。ロボット開発と実用化の関係には、技術だけでなく社会の要請やプロジェクト資金の制度の問題も含まれており、統合的にマネジメントする必要を強く感じました。研究開発のお話では前山先生をはじめとする研究者の純粋な好奇心をモチベーションとする姿が垣間みられました。科学する心は童心に還って夢中になるという側面もあり、小中学校の理科の授業でも、子供たちが夢中になれるような仕掛けが作れるCSTになってもらえたらと思います。私が子供の頃ラジコンは高額の花でしたが、最近はいついつい大人買いする衝動を抑えるのが大変です。今回の講座でリミットが外れそうです。 【文責：平野和司】

センター紀要第4号発刊



教師教育開発センター紀要（第4号）を3月10日に刊行しました。第4号は研究論文11本、実践報告5本、資料1本の計17本を掲載しています。すべて教師教育（教員養成教育、現職教育、全学教職課程の取組み等）及び教育実践に関する論文です。本紀要は電子媒体でのみ刊行しており、「岡山大学学術成果リポジトリ」及び「国立国会図書館」の下記URLからPDF版を無償で入手できます。次号の原稿募集は9月頃に行います。全学に開かれた紀要です。皆様の意欲的な投稿をお待ちしています（投稿に関する要綱等は下記URLをご覧ください）。

【岡山大学学術成果リポジトリURL】

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/journal/cted/4>

【国立国会図書館URL】

<http://iss.ndl.go.jp/>

※キーワードに「教師教育開発センター紀要」と入れて検索してください。

【センター紀要関連URL】

<https://cted.okayama-u.ac.jp/bulletin/>

【文責：高旗浩志】

『先進的教員養成プロジェクト』中間報告会・シンポジウムの開催

平成26年3月7日、大学・教育委員会・学校関係者等約100名の参加者の下、「先進的教員養成プロジェクト」中間報告会・シンポジウムを開催しました。開会に当たり、文科省高等教育局大学振興課長里見朋香氏、岡山県教育庁高校教育課長近藤治氏の御挨拶の後、本学加賀勝教育学研究科長による本プロジェクトの取組概要の報告がありました。引き続き、里見課長から、「教員養成改革の動向」と題しての基調講演があり、「教員養成の現状と課題」、「教員養成系大学・学部の将来の方向性」等について貴重な情報をいただきました。その後、本プロジェクトによる「教科内容構成事業」及び「学校課題解決のためのオンデマンド研修とインターンシップ実習の連動事業」の取組について、それぞれ3年目を終えた段階での成果と今後の展望についての報告がありました。

引き続きのパネルディスカッションでは、「大学と学校・教育委員会の協働」をテーマに、それぞれの立場から実践事例の紹介等があり、活発な議論が交わされました。

本日の会で、大学と学校・教育委員会の新たな連携・協働の姿が築かれつつあること、そして今後本事業を推進していく上で貴重なご示唆等々多々頂けたことを参会者一同で確認し、会が閉じられました。

【文責：山根文男】



教員採用試験の



その八「教職相談室のドアをノックしよう」

教育学部講義棟2階に教職相談室があります。そこでは、私たち3名の教員が、皆さんがすばらしい教員になるためのお手伝いをさせていただいています。私たちは岡山大学を卒業後、教育現場で30数年間教師として働いてきました。その間、教員を採用する側の教育委員会で仕事をさせていただいたり、校長として学校を管理する立場での仕事をさせていただいたりしまし

た。私たちはこれまでの経験を生かして、後輩である皆さんが教員になるためのお世話を精一杯させていただきたいと思っています。どうぞ、教職相談室のドアを気軽にノックしてください。教職相談室では、皆さんの教職に関するあらゆる相談にのらせていただくとともに、教採で課される、小論文、面接、集団討論、模擬授業などの指導を行っています。また、教職相談室に

は、各県市の過去問や参考書、教採に関する最新の雑誌や新聞、先輩の受験体験記、教師力養成講座のDVDなどの資料もたくさんあります。これまでのデータを見ると、教職相談室を早く利用し始めた人ほど、そして、利用した回数が多い人ほど教採の合格率が高くなるという結果が出ています。教職相談室を大いに利用してください。 【文責：小川潔】